

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 柄杓田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・思考力・判断力・表現力の「書くこと」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域については概ね理解している。 ・「無回答率」が0%。知識・技能の「我が国の言語文化に関する問題」に課題が見られる。
	よくできた問題	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題。
	努力が必要な問題	文中における、主語と述語や修飾と被修飾語の関係を捉える問題。学年別配当漢字を文中の中で正しく使う問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」の領域は概ね理解している。 ・「無回答率」は0%。「変化と関係」領域の割合に関する問題に課題が見られる。
	よくできた問題	示された場面を解釈し、除法・乗法の計算や理由を記述する問題。
	努力が必要な問題	図形を構成する要素に着目したり、図形の性質や構成について理解する問題
理科	全体的な傾向や特徴など	・「生命」を柱とする領域については、概ね理解している。 ・「無回答率」が0%。しかし、「地球」を柱とする領域と「エネルギー」を柱とする領域については、結果から分析し、根拠を述べる問題に課題が見られる。
	よくできた問題	問題を解決するための必要な観察の視点を基に、問題解決までの筋道を構想し、自分の考えをもつ問題。また、追加された情報を基に、実験の方法を検討・改善し、自分の考えをもつ問題。
	努力が必要な問題	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析し、解釈し、自分の考えをもつ問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○寝る時刻や起きる時刻などは概ね規則的である。基本的な生活習慣の定着に向け家庭の協力が得られている。</p> <p>○普段から本に慣れ親しみ、読書の習慣が身に付いている。年間を通しての読み聞かせや読書活動の充実の取り組みの成果が出ている。今後一人一人が自分のよさを感じ、自信を持って行動することのよさを全教育活動、特に特別活動等の充実を図っていく必要がある。</p> <p>○将来の夢や目標を持っており、人の役に立ちたいと考えている。また、自分の思っていることや感じていることなどきちんと言葉で表すことができていることは、小規模の学校の特性を生かした一人一人が自分のよさを感じ、自信を持って行動することのよさを感じる教育活動、特に特別活動等の充実を図ってきたことの成果といえる。</p> <p>・家庭での時間に学習に関連するしない関係なくスマートフォン等のICT機器に触れる時間が増えてきている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○各教科について、基礎・基本の学習の徹底を図ると共に、授業の中で自分の書いたり、伝えたりする活動を取り入れる。</p> <p>○北九州市「学びの質を高める授業づくり」の5つのポイントに基づき、若年研修等、授業公開を行い、教師の授業の質をさらに高める。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○学校通信、学校HP、個人懇談会などで、学校が家庭と連携を取り、インターネット等の情報モラルや家庭学習の充実の啓発を行う。</p>
--